

平成 2 2 年度

(第 1 /3 回)

(集団研修)

普及指導員のための畑作物管理

実施要領

平成 2 2 年 6 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 上位目標	2
4. 案件目標	2
5. 単元目標	2
6. 研修成果品	2
7. 研修員参加資格要件	3
8. 研修実施体制	3
9. 研修の評価	4
10. 研修付帯プログラム	5
11. 主な宿泊場所	6
12. その他	6

参考資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 コースカリキュラム（案）
- 付表－3 コース日程（案）
- 付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文：（集団研修）普及指導員のための畑作物管理

英文：Group Training Program on “Upland Cereal Crops Management for Extension Officers”

(2) 受入期間

平成 22 年 5 月 30 日（日）～ 7 月 28 日（水）

(3) 技術研修期間

平成 22 年 6 月 8 日（月）～ 7 月 27 日（火）

(4) 定員、割当国

定 員：10 名（受入数 9 名）

割当国：エチオピア、ヨルダン、ミャンマー、スーダン、ザンビア、ジンバブエ
（下線は受入国）

(5) 研修類型：人材育成普及型

(6) 使用言語：英語

2. 案件の背景・目的

途上国では、国民の多数が農村で生活し、農業を営んでいる一方で、人口が急激に増加しており、食料の確保が急務である。また、農地の過度な利用による土壌の劣化、水不足などが問題となっている。このため、安定的に食糧生産を行い、また生産量を増加させるためには、農地の適切な利用、効率的な生産がますます重要になっている。

安定的な食糧生産や生産量の増大には、試験研究や農民自身により開発された適正技術が普及指導員を通じて地域の農民に広く普及することが不可欠である。

しかしながら、途上国では普及組織が人的、物的、資金的に脆弱なため、技術開発の成果を農民に伝えることが困難となっている。具体的には、普及員が農家のニーズを把握する能力や機会の不足、開発した技術の応用や、それを伝える普及技術が未発達であり、また効率的に普及を実施するための移動手段や研修施設が十分ではない。

このような背景の下、本案件は開拓以来の十勝地方の農業技術の発展とその普及技術およびその体制の変遷を学ぶことで、途上国の農業普及システムおよび農業技術の発展に寄与することを目的とする。

3. 上位目標

所属部署・組織により、策定した農業普及に関する特定技術の普及計画が実施される。

4. 案件目標

農業普及に関する特定技術の普及計画案が所属部署・組織によって作成される。

5. 単元目標

- (1) 農業普及に関する特定課題の原因を具体的に列挙できる、もしくは原因を特定するための調査ができる。
- (2) 適正技術の開発の方向性を論理的に説明できる。
- (3) 農業技術の効果的な普及方法を事例をもとに説明できる。
- (4) 本邦研修終了時に普及計画の素案が作成される。

6. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書（Inception Report）」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に報告する。

- (2) 本邦研修終了時

「中間報告書（Interim Report）」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標（3）にかかる活動計画（案）を作成し、

コース終盤に発表する。

(3) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた活動計画（案）を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な活動計画をまとめ、帰国後３ヶ月以内に JICA 帯広に提出する。JICA 帯広は同計画書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

7. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

- ア. 畑作物（主に小麦、馬鈴薯、豆類）栽培に関し、農民に直接技術指導をしている農業普及員または普及員を指導する専門技術員（大学での研究者および行政官は除く）
- イ. 当該分野で３年以上の経験を有する者
- ウ. 年齢が２５歳以上４５歳以下の者
- エ. 畑地実習が多いため、十分な体力があり、女性に関しては妊娠していない者

(2) 各案件共通資格要件

- ア. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること
- イ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること
- ウ. TOEFL iBT 72 点（CBT 200 点／PBT 533 点）以上に相当する英語能力を有すること
- エ. 心身ともに健康なこと
- オ. 軍に属していないこと

8. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーである株式会社帯広市農業振興公社の森脇芳男生産技術部長の助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を社団法人北方圏センター（NRC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター（JICE）

所属の研修監理員を配置する。具体的な業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間等）

イ. 評価

ウ. 実施予算の執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成 等

(2) NRC

ア. 日程表の調整・作成

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言 等

(4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳 等

9. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標（1 頁参照）に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による案件目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、研修監理員、社団法人北方圏センター等が参加し、研修の目標・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

10. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務および案件概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
5 月 31 日（月）	ブリーフィング
6 月 1 日（火）	ジェネラルオリエンテーション
午前	講義「日本の社会と日本人」
午後	講義「日本の経済」

2 日（水）	ジェネラルオリエンテーション
午前	講義「日本の教育」
午後	講義「日本の政治・行政」「日本の歴史・文化」
3 日（木）	日本語講習
4 日（金）	日本語講習

11. 主な宿泊場所

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 帯広市西 2 0 条南 6 丁目 1 - 2

Tel（0155）35-2001 Fax（0155）35-2213

12. その他

（1）修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

（2）研修員の待遇

ア．入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ．滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

（3）国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp

平成22年度 研修員情報

研修員情報（英語力はリスニング／スピーキング／記述能力／読解能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし）

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴（専攻） ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① Mr. AMAN Basazine Mohammed ② D-10-01199 ③ 43 ④ 男性 ⑤ エチオピア	① 農業・農村開発局 農業普及サービス部 作物生産・保護専門家 ② 21年 ③ ウクライナ農業アカデミー （作物保護専攻 修士） ④ BBAB ⑤ なし	① ・作物開発パッケージの準備 ・現場普及員に対する研修 ・参考マニュアルの作成 ・現場における普及員の監督および指導 ② 天然資源開発により市場主導型の農業普及事業を提供、農業生産および生産性の向上を図る	土壌分析、畑作物管理普及手法およびシステムに大変関心がある
2	① Mr. AL-MOMANI Aiman Mohammad Faleh ② D-10-00950 ③ 51 ④ 男性 ⑤ ヨルダン	① 農業省 農業研究・普及センター 作物・普及プログラム局 研究員 ② 1年 ③ ヨルダン科学技術大学（農作物専攻 修 ④ AAAB ⑤ シリア 農業研究センター（1991年） 「穀物改良プログラム」 韓国 国際農業研修センター（1997年） 「作物生産技術」 JICA筑波センター（2008年） 「乾燥地農業における効率的な水利用」	① ・穀物・豆類研究ユニットおよび普及プログラムの構築 ・農家収入向上のための新品種の栽培マニュアル作成 ・試験場における新品種開発 ・プロジェクト計画、予算編成、および穀物・豆類栽培に関するデータ分析と圃場評価 ② ・農業生産向上のための研究結果の利用 ・管轄地域における重点普及プログラムの策定 ・食料保障の向上のための穀物と飼料の品種改良および普及プログラムの実施 ・普及員による農家への技術移転の調整	・栽培マニュアル作成 ・異なる環境に対する植物応答の分析 ・穀物プログラム普及のための計画・評価能力の向上 ・専門家による普及事業の展開 ・技術情報普及のための新たなサービス ・普及専門員の技術向上 ・普及員向けの研修法
3	① Mr. HAMASHA A'sem Ibrahim Shanwan ② D-10-00951 ③ 41 ④ 男性 ⑤ ヨルダン	① 農業省 農業研究・普及センター 農業普及部 農業指導員 ② 4年 ③ ジャラシュ国立大学（農業工学） ④ BBBC ⑤ 記載なし	① ・農家への普及 ・農家が抱える問題の特定 ・農家収入向上の助けとなる普及プログラムの導入 改良農業技術に関する農家研修の実施 ② ・農業技術移転 ・技術研修の実施 ・国内外における農業指導 ・研究および農業普及支援のための財源確保 ・農業普及専門員の支援	自身の業務は穀類を含む様々な作物に関する膨大な知識を要する。ヨルダンの農家の畑作物管理は不十分であり、必要とされる技術である。
4	① Ms. ZAR Zar Min ② D-10-00807 ③ 35 ④ 女性 ⑤ ミャンマー	① 農業灌漑省 農業サービス局 普及部 副部長 ② 2年 ③ 農業大学（作物生産） ④ BBBB ⑤ 中部国際センター（2007年） 「地域開発プロジェクト策定」	① ・農家への適切かつ適用可能な技術移転 ・主要作物の展示圃および試験圃の設置 ② ・農家に対する適正技術の移転 ・農業生産性および農家の生活水準の向上を目指す	・日本の農協 ・PCM手法 ・日本の管理技術 ・農業計画の評価手法

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴（専攻） ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
5	① Mr. MOHAMED ELHAJ ABAS Hassabo ② D-10-00952 ③ 52 ④ 男性 ⑤ スーダン	① 農業森林省 技術移転・普及管理センター長 ② 6年 ③ ゲジラ大学（農業・普及専攻 修士） ④ AAAA ⑤ イギリス サセックス大学（'91年） 「農村開発」 インド NISLET（'96年）「訓練法および技能」 韓国 KOICA（2006年）「持続的な農業開発」	① ・年間事業計画策定 ・研修コースのデザイン ・センター事業計画の促進 ・センター職員の監督 ② 技術移転・普及管理は農業省に対して普及管理センターを通じた支援および直接支援を行うことを使命とする	・穀物技術パッケージ ・普及手法および技術 ・生産経済学 ・農家およびセンター管理 ・温室管理 ・コンピュータ技術 ・能力開発
6	① Mr. MWEEMBA James ② D-10-00642 ③ 36 ④ 男性 ⑤ ザンビア	① 農業協同組合省 農業局 農業担当官 ② 2年 ③ ザンビア大学（農学） ④ AAAA ⑤ なし	① ・知識・技術普及の効率化を図るための普及員研修の実施 ・農業助手・普及員に対する情報提供および技術指導 ・地区における農業活動およびプログラムのモニタリング ・農家の市場へのアクセスの手助け ・農業技術情報の収集 ・農家向けの研修および予算策定 ・地区におけるプログラムのモニタリング・評価用のデータ収集 ・地区および現場職員の監督 ② 国および家庭レベルでの食料保障と所得創出の確実化のために持続可能な農業部門の発展を促進・支援する。またセクターの国内総生産への貢献度を向上させる。	国民の大多数が依存している穀物に関心がある
7	① Mr. BANDA John Samuel Kalunguzya ② D-10-00644 ③ 26 ④ 男性 ⑤ ザンビア	① 農業協同組合省 農業研究所 研究官 ② 2年 ③ ザンビア大学（天然資源学） ④ AAAA ⑤ 記載なし	① ・適正技術の研究開発 ・生産および土地利用促進のための相談サービス ・新技術導入に関するモニタリング・評価 ② 農村家庭の食料保障および衡平な所得創出の機会を増大させる技術と知識の提供を通じてザンビア国民の福祉に寄与する	・作物管理 ・土壌分析 ・農業資材製造 ・農協のシステムと現状 ・技術普及システム これらの技術は自身の業務に関連しているため業務改善につながるであろう
8	① Mr. NGWEZUKA Vivian ② D-10-01149 ③ 38 ④ 男性 ⑤ ジンバブエ	① 農業・機械化・灌漑開発省 農業技術普及部 地区農業普及担当官 ② 1年 ③ ジンバブエ大学（農業管理） ④ BBBB ⑤ なし	① ・作物生産に関する技術情報の農家への提供 ・農村問題の把握および解決策の模索 ・地区における農業関連プロジェクトの管理 ・問題解決のための農家と研究官との橋渡し ② 農業普及プログラムの管理を担い、技術開発や普及事業を通じて持続的かつ収益性の高い農業生産の向上に寄与する	・農業普及における技能開発 ・適正農業技術および情報普及 ・研究および普及支援
9	① Mr. MUHAMBI Mutsa ② D-10-01150 ③ 28 ④ 男性 ⑤ ジンバブエ	① 農業・機械化・灌漑開発省 灌漑開発局 農学者 ② 3年 ③ ミッドランズ州立大学（農学） ④ BBBB ⑤ なし	① ・農業生産増大のための研究および普及 ・作付および灌漑計画の作成 ・作物評価 ・契約栽培の調整 ② 灌漑開発局は全ての灌漑事業の提供を担う。利害関係者の支援を行い、研究および普及を通じて食料保障、栄養改善、貧困撲滅に対処する	以下を説明できるようになることを期待する ・適正技術の開発 ・効果的な普及方法 ・問題分析および解決策 ・アクションプラン作成 ・自国の課題解決に関する討議

(単位:day)

小項目	カリキュラム	講義	実習	視察	討論	担当講師	講義目的	講義内容
単元目標1：集約的作物栽培技術を説明できる								
農業の概要	日本の農業	0.5				農業振興公社	日本の農業概要を紹介、課題と問題点の対策を知る	日本の農業の現状、今後の進展方向
	帯広市の農業	0.5				農政課	帯広市の農業の推移と現状	帯広市の農業概要を紹介
	農業行政および農業技術センターの役割	0.5		0.5		農政課	農業と行政の関わりを理解し、農業技術センターの役割を知る	農業行政の仕組みについての講義、技術センターの農産係、経営係の業務内容説明及びほ場視察
	畑作農家現地視察			0.5		農家（広瀬牧場）	酪農家の現状視察	農家の見学
農業の変遷	昔の農業	0.5				農政課	日本の農業の歴史・変遷を知る	日本の農業の歴史・変遷（ビデオ）
	農業機械		0.5	1.0		農機具歴史館 田畑農機 国際農業機械展	昔の農作業機・農具の紹介 小規模で簡易な農業機械の紹介 最新の農機具の展示会	農作業機・農具について
				0.5		大塚農場、農業振興公社	畑作農家でのほ場実習	播種機、カルチ、防除機
管理技術	作物栽培管理	1.5	1.5			農業振興公社	作物の栽培管理実習	各種管理作業（耕起・施肥・播種・移植・防除等）の実習
	栽培技術の実態と技術習得	1.0	1.0			農業振興公社	穀類（小麦・豆）、根菜類（馬鈴薯）の栽培技術について知る	栽培技術に係る講義と実習
	土壌分析	0.5	0.5			農業振興公社	PH・EC簡易分析	分析実習/硝酸態窒素の土・作物の残留分析実習
	生育調査実習		1.0			農業振興公社	品種を比較するためなどの生育調査についてその意義や方法を理解する	生育調査の実施
	農産物の増収・品質向上の取組	0.5				十勝農協連	増収・品質向上のための土壌診断、根粒菌、種子管理について知る	土壌診断、根粒菌、種子管理にかかると価値農協連の取組
	農産物加工		0.5			農家	付加価値化や貯蔵、余剰生産物の活用について具体的技術を知る	野菜加工（ジャム）の実習
	関連視察	ファームステイ		2.0			農家	農家の実作業を体験する
道外研修				4.0		姫路市農業振興センター	都市近郊農家の現状	園芸センターの視察、ため池の視察
						さいたま農林振興センター	農業技術の実証と営農改善	営農組合について
						タキイ種苗㈱	種子・育苗の現状を見る	種子・育苗の現状の視察
単元目標2：効率的普及方法と地域に応じたシステムを説明できる								
試験研究	農業技術開発と技術普及の制度と現状	1.0				道立十勝農試技術普及部	北海道の試験研究の課題選定から研究成果の過程と、技術普及の制度を学ぶ	・研究課題の選定・研究方法・研究成果の活用 ・普及制度と技術普及の方法
農協	農協の制度と業務	1.0		0.5		JA川西	農協制度を理解し、集出荷の状況を見学する	農協制度・組合員勘定制度・生産組合制度と集出荷施設の見学
技術普及	農業普及事業の現状	0.5		0.5		十勝農業改良普及センター	試験研究結果を農家へ普及させる手法、地域の課題解決手法を学ぶ	・試験場からの研究結果の普及方法 ・農家・農協の課題（土づくり・地域づくり）
	農業者の取り組み				0.5	畑作農家（中藪）	農業者の技術普及分野の取り組み	農業者による技術普及に関する討論
	農業高校	0.5		0.5		帯広農業高校	担い手としての農業高校の人材育成について知る	・農業高校の取組み ・生徒のプロジェクトの視察
	北海道立農業大学校視察	0.5		0.5		北海道立農業大学校	農業学校における人材育成を学ぶ	・北海道立農業大学校の取組み ・カリキュラムの視察
農村振興	農村との交流事業			1.0		八千代牧場	農業まつりの意義と状況を理解し、農家グループの活動や農産物・加工品の販売状況を視察する	牧場まつり見学
	農村女性の活動			0.5		チャオ代表	農村女性による活動	事例紹介
農業共済制度	農業共済制度	0.5				農業共済組合	共済制度の仕組みと内容	査定の具体的な方法など
学術研究機関	大学の研究と教育の現状	0.5				帯広畜産大学 地域共同センター	大学教育と地域共同研究センターの研究の取り組みを学ぶ	・大学の教育研究制度 ・地域共同研究センターの共同研究の内容
単元目標3：作物栽培普及における自国での地域課題を整理し、技術普及の企画・実施・評価を通して解決策の計画策定ができる。								
課題の設定	研修課題検討				1.0	農政課 農業振興公社	研修員の仕事内容を把握し課題を整理する	課題の選定と分担
解決策の手法	PCM研修	1.0	2.0			コンサルタント	研修員の課題解決のため、問題整理・解決手法を学ぶ	ワークショップによるPCM研修
解決策の構築	インテリムレポート検討会				1.0	農政課 農業振興公社	研修員のインテリムレポートの具体化	インテリムレポートの具体的計画づくり
					1.0	農政課 農業振興公社	課題別に研修員間でインテリムレポートの内容を検討	インテリムレポート内容の具体策について検討
					1.0	農政課 農業振興公社	インテリムレポート発表指導	インテリムレポートの個別指導
	振返り				0.5	JICA	研修の内容を振返り、研修員間で討論をすることで理解を深める	研修員の自主講義
発表会	インセプションレポート発表会				0.5			
	インテリムレポート発表会				0.5			
その他								
学校訪問								

(小計) 11.0 9.5 9.5 6.0

付表-3

平成22年度日程表（案）

月日		区分	時刻	カリキュラムとその内容	担当機関（講師名）	研修場所	宿泊
5/30	日			来日			帯広
5/31	月			入館式、集合ブリーフィング	NRC	帯広国際センター	
6/1	火			ブリーフィング、オリエンテーション	NRC	帯広国際センター	
6/2	水			ジェネラルオリエンテーション	NRC	帯広国際センター	
6/3	木			日本語	NRC	帯広国際センター	
6/4	金			日本語	NRC	帯広国際センター	
6/5	土			休 日			
6/6	日			休 日			
6/7	月		9:15-9:45	市長表敬	帯広市役所	帯広市役所	
			10:30-12:00	コースオリエンテーション	帯広市農業振興公社 森脇 芳男	帯広国際センター S2	
		検討会	13:30-16:00	研修課題検討会（1）	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 中田 英二		
6/8	火	検討会	9:30-12:00	研修課題検討会（2）	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 中田 英二	帯広国際センター S2	
		発表会	13:30-16:00	インセプションレポート発表会	関係講師	帯広国際センター ORルーム	
6/9	水	講義	9:30-12:00	農業概要（1）日本の農業	帯広市農業振興公社 森脇 芳男	帯広市農業技術センター	
		講義	13:00-15:30	農業概要（2）帯広市の農業	帯広市農政課 中田 英二		
6/10	木	講義	9:30-12:00	農協の制度と業務	JA川西 参事 半田 聡	帯広市川西農業協同組合	
		講義	13:00-15:30				
6/11	金	講義	9:30-12:00	大学教育及び産学官連携協力の現状について	帯広畜産大学 地域連携推進センター センター長 日高 智	帯広畜産大学 地域連携推進センター	
		視察	13:30-16:00	農協の制度と業務、施設見学	JA川西 別府事業所長 常田 馨	帯広市川西農業協同組合 別府事業所	
6/12	土			休 日			
6/13	日			休 日			
6/14	月	講義	9:30-12:00	昔の農業 / 農機具歴史館視察	帯広市農業振興公社 中井 敬二	帯広市農業技術センター	
		講義	13:30-16:00	農業共済制度	十勝農業共済組合農作部 西田 幸博	帯広国際センター S4	
6/15	火	講義	9:30-12:00	農業技術センターの役割 農業行政の仕組み	帯広市農政課 中田 英二	帯広市農業技術センター	
		講義	13:00-15:30	指定病害対策	帯広市農政課		
6/16	水	ワーク ショップ	9:30-12:00	PCM研修	グローバルリンクマネジメント株式会社	帯広国際センター ORルーム	
			13:30-16:00				
6/17	木	ワーク ショップ	9:30-12:00	PCM研修	グローバルリンクマネジメント株式会社	帯広国際センター ORルーム	
			13:30-16:00				
6/18	金	ワーク ショップ	9:30-12:00	PCM研修	グローバルリンクマネジメント株式会社	帯広国際センター ORルーム	
			13:30-16:00				
6/19	土			休 日			
6/20	日			休 日			
6/21	月	講義・ 実習	9:30-12:00	栽培技術の実態と技術習得1 穀類（小麦・豆類）	帯広市農業振興公社 佐藤 允信 （サブ講師）帯広市農業振興公社 中井 敬二	帯広市農業技術センター	
			13:00-15:30				
6/22	火	講義・ 実習	9:30-12:00	栽培技術の実態と技術習得2 根菜類（馬鈴薯）	帯広市農業振興公社 佐藤 允信 （サブ講師）帯広市農業振興公社 中井 敬二	帯広市農業技術センター	
			13:00-15:30				
6/23	水	講義・ 実習	9:30-12:00	作物栽培管理実習1（播種準備作業）	帯広市農業振興公社 中村 嘉秀 （サブ講師）帯広市農業振興公社 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター	
			13:00-15:30				
6/24	木	実習	9:30-12:00	農業機械実習	農家 大塚 正昭 （サブ講師）帯広市農業振興公社 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター	
		視察	14:00-15:30	農家現地視察	広瀬牧場	広瀬牧場	
6/25	金	検討会	9:30-15:00	レポート検討会①	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 中田 英二	帯広国際センター ORルーム	
			15:30-16:30	研修の振り返り	研修員の自主活動		
6/26	土			休 日			
6/27	日			休 日			
6/28	月	講義・ 視察	9:30-12:00	農業技術開発と技術普及の制度と現状	十勝農業試験場	地方独立行政法人 北海道立 総合研究機構 農業研究本部 十勝農業試験場	
			13:00-15:00				

6/29	火	講義・視察	10:00-12:00	農業普及事業の現状と仕組み	十勝農業改良普及センター	北海道十勝総合振興局産業振興部 十勝農業改良普及センター	
			13:00-15:00				
6/30	水	講義	9:30-12:00	農業者の取組み	畑作農家 中藪 俊秀	帯広市農業技術センター	
		視察	13:30-16:00	農村女性の活動事例紹介	チャオ代表 石井 栄子	広野町石井農場、 広野農業担い手センター	
7/1	木			学校訪問			
7/2	金	実習	10:00	農家滞在研修:ファームステイ(1)	畑作農家	畑作農家	
7/3	土	実習		農家滞在研修:ファームステイ(2)	畑作農家	畑作農家	
7/4	日			休 日			
7/5	月	講義・実習	9:30-12:00	作物栽培管理実習2(作物の播種、移植)	帯広市農業振興公社 中村 嘉秀 (サブ講師)帯広市農業振興公社 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター	
			13:00-15:30				
7/6	火	講義・実習	9:30-12:00	作物栽培管理実習3(雑草の管理)	帯広市農業振興公社 佐藤 允信 (サブ講師)帯広市農業振興公社 中村 嘉秀、 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター	
			13:00-15:30				
7/7	水	講義・視察	9:30-12:00	帯広農業高等学校における人材育成の取組み	北海道帯広農業高等学校	北海道帯広農業高等学校	
			13:00-15:30				
			16:00-17:00	研修の振り返り	研修員の自主活動	帯広国際センター S2	
7/8	木	講義・視察	10:30-12:00	北海道立農業大学校における人材育成の取組み	北海道立農業大学校	北海道立農業大学校	
			13:00-15:00				
7/9	金	講義・実習	9:30-12:00	生育調査実習	帯広市農業振興公社 佐藤 允信 (サブ講師)帯広市農業振興公社 中村 嘉秀、 中井 敬二	帯広市農業技術センター	
			13:00-15:30				
7/10	土		9:30-12:00	国際農業機械展	帯広市農業振興公社 中井 敬二	北愛国交流広場	
7/11	日						
7/12	月	講義・視察	9:30-12:00	簡易土壌分析の習得	帯広市農業振興公社 中村 嘉秀 (サブ講師)帯広市農業振興公社 佐藤 允信	帯広市農業技術センター	
			13:00-15:30				
7/13	火	講義・視察	9:30-12:00	農産物の増収・品質向上の取組み(土壌診断、根粒菌、種子管理)	十勝農業協同組合連合会 農産化学研究所	十勝農業協同組合連合会 農産化学研究所	
		実習	13:30-16:30				
7/14	水	討論	9:30-12:00	レポート検討会②	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 中田 英二	帯広国際センター S4	
			13:30-16:00				
7/15	木	視察	10:00-12:00	農業機械の視察	田端農機具製作所	田端農機具製作所	
			PM	研修の振り返り	研修員の自主活動	帯広国際センター S2	
7/16	金	講義・実習	9:30-12:00	病害虫の対策と管理	帯広市農業振興公社 佐藤 允信 (サブ講師)帯広市農業振興公社 中村 嘉秀、 中井 敬二、 淵上 正春	帯広市農業技術センター	
			13:00-15:30				
7/17	土			休 日			
7/18	日			休 日			
7/19	月			帯広→兵庫			
7/20	火	視察	10:00-12:00	都市近郊の農業の現状、市民農園、ため池、関連する各施設の視察	姫路市農業振興センター	姫路市農業振興センター 関連する視察先	兵庫
			13:00-15:00				
7/21	水			兵庫→京都			京都
7/22	木	視察	10:00-12:00	タキイ種苗視察	タキイ種苗株式会社	タキイ研究農場	東京
			午後	京都→東京			
7/23	金	視察	10:00-12:00	東京近郊の農業の現状視察	さいたま農林振興センター	さいたま農林振興センター	
7/24	土			東京→帯広			
7/25	日			休 日			
7/26	月	討論	9:30-12:00	インテリムレポート実施検討会(リハーサル)	帯広市農業振興公社 森脇 芳男 帯広市農政課 中田 英二	帯広国際センター ORルーム	
			13:30-16:00				
7/27	火		10:00-12:00	評価会	帯広市農業振興公社 森脇 芳男	帯広国際センター	
		発表会	13:30-16:00	インテリムレポート発表会	関係講師		
			16:00-17:30	閉講式・閉講パーティ	関係者		
7/28	水			帰国			

年度別受入実績表

1. 応募／選定（受入）人数

	平成22年度	累計
応 募 数	10名	10名
受 入 数	9名	9名

2. 国別受入人数

○男性 ●女性

国 名	平成22年度	累計
ミャンマー	●	1名
ヨルダン	○○	2名
エチオピア	○	1名
スーダン	○	1名
ザンビア	●●	2名
ジンバブエ	●●	2名
合 計	6カ国 9名	6カ国 9名